

## 再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	地域高規格道路 伊那木曾連絡道路 一般国道361号 姥神峠道路(延伸)	事業区分	一般国道	事業主体	長野県
起終点	自: 長野県木曾郡木曾町日義宮ノ越 至: 長野県木曾郡木曾町日義神谷			延長	3.5km
事業概要					
<p>伊那木曾連絡道路は長野県伊那市と木曾町を結ぶ地域高規格道路であり、伊那地域集積圏と木曾地域集積圏の連携を強化し、広域交流を促進する延長約20kmの幹線道路である。</p> <p>一般国道361号姥神峠道路(延伸)は、伊那木曾連絡道路の一部を構成しており、土砂流出や法面崩壊による通行止めを回避することで第一次緊急輸送道路の機能を強化するとともに、両地域の観光や商業、就労促進を含めた地域活性化に寄与することを目的として、木曾町日義宮ノ越～木曾町日義神谷の延長約3.5kmを整備するものである。</p>					
R3年度事業化		-		R5年度用地着手	
R5年度工事着手					
全体事業費	約160億円	事業進捗率	約12%	供用済延長	- km
計画交通量	5,800台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	1.2		115/136 億円	161/161 億円	
	(参考) 1.8 [2%]	4.9%	事業費: 112/132 億円	走行時間短縮便益: 131/131 億円	令和7年
	2.3 [1%]		維持管理費: 3.6/3.6 億円	走行経費減少便益: 25/ 25 億円	
	(残事業)	(残事業)	更新費: - / - 億円	交通事故減少便益: 5.5/ 5.5 億円	
1.4		感度分析			
(参考) 2.1 [2%]	5.7%	交通量	B/C=1.1~1.3(±10%)	交通量	B/C=1.2~1.5(±10%)
2.6 [1%]		事業費	B/C=1.1~1.3(±10%)	事業費	B/C=1.2~1.5(±10%)
		事業期間	B/C=1.2~1.2(±20%)	事業期間	B/C=1.4~1.4(±20%)
事業の効果等					
①広域道路ネットワークの形成					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域高規格道路「伊那木曾連絡道路」の整備により、伊那地域と木曾地域の連携を強化し、中央自動車道や一般国道19号、一般国道153号と一体となる広域的な道路ネットワークが形成される。</li> </ul>					
②災害時におけるリダンダンシーの確保					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般国道361号は第一次緊急輸送道路に指定されているが、現道区間においては近年の異常気象により被災が頻発化するとともに、通行止めが長期化する事態が生じているため、本事業により被災頻発箇所を回避するバイパスを整備することで緊急輸送道路ネットワークが強化される。</li> <li>・また、重要物流道路として平常時・災害時を問わない安定的な人流・物流を確保するとともに、一般国道19号が通行止めとなった際の代替機能も期待される。</li> </ul>					
③救急医療活動の支援					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三次救急医療機関(伊那中央病院)への搬送時間短縮に寄与し、救命活動の迅速性・確実性の向上が期待される。</li> </ul>					
④地域間交流・連携の促進					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊那地域と木曾地域の交流促進が図られ、両地域の観光や商業、就労促進を含めた地域活性化に寄与する。</li> </ul>					
⑤安全・安心な交通の確保					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路線形の改善による交通事故の減少や、災害に対する安全性の向上が期待される。</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>岐阜県高山市から長野県伊那市の沿線3市1町2村の沿線自治体等で構成される「一般国道361号改良促進期成同盟会」から、当該路線の整備促進の要望を受けている。</p>					

**事業評価監視委員会の意見**

伊那地域と木曾地域を結ぶ広域的な道路ネットワークを形成し、地域間の連携と広域交流を促進する道路であるとともに、第一次緊急輸送道路、重要物流道路に指定されており、地域の経済発展と安全・安心な交通を確保する観点から事業の必要性は高いため、事業継続を妥当と判断する。

**事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等**

令和4年4月1日に重要物流道路の指定。その他、周辺環境等に特に変化はない。

**事業の進捗状況、残事業の内容等**

用地進捗率約9%、事業進捗率約12%

**事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等**

残る用地の取得を継続しており、今後は早期完了を目指し、改良工事を推進していく。

**施設の構造や工法の変更等**

高橋脚への高強度鉄筋の使用による鋼材使用量の低減や、ICT施工による省力化・省人化を図るとともに、新技術・新工法の積極的な活用により、着実なコスト削減に努める。

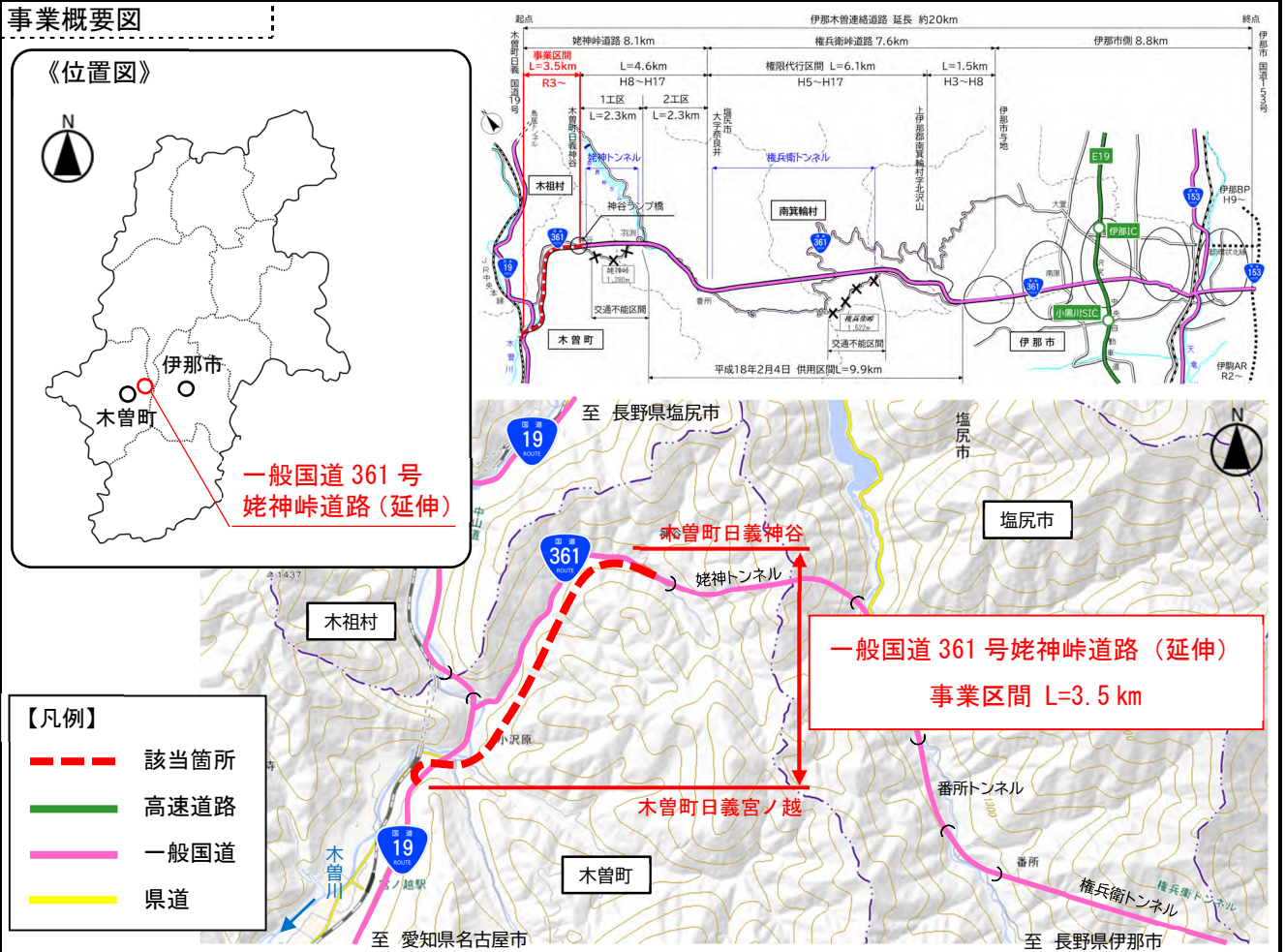
**対応方針**

事業継続

**対応方針決定の理由**

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

**事業概要図**



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。  
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)